

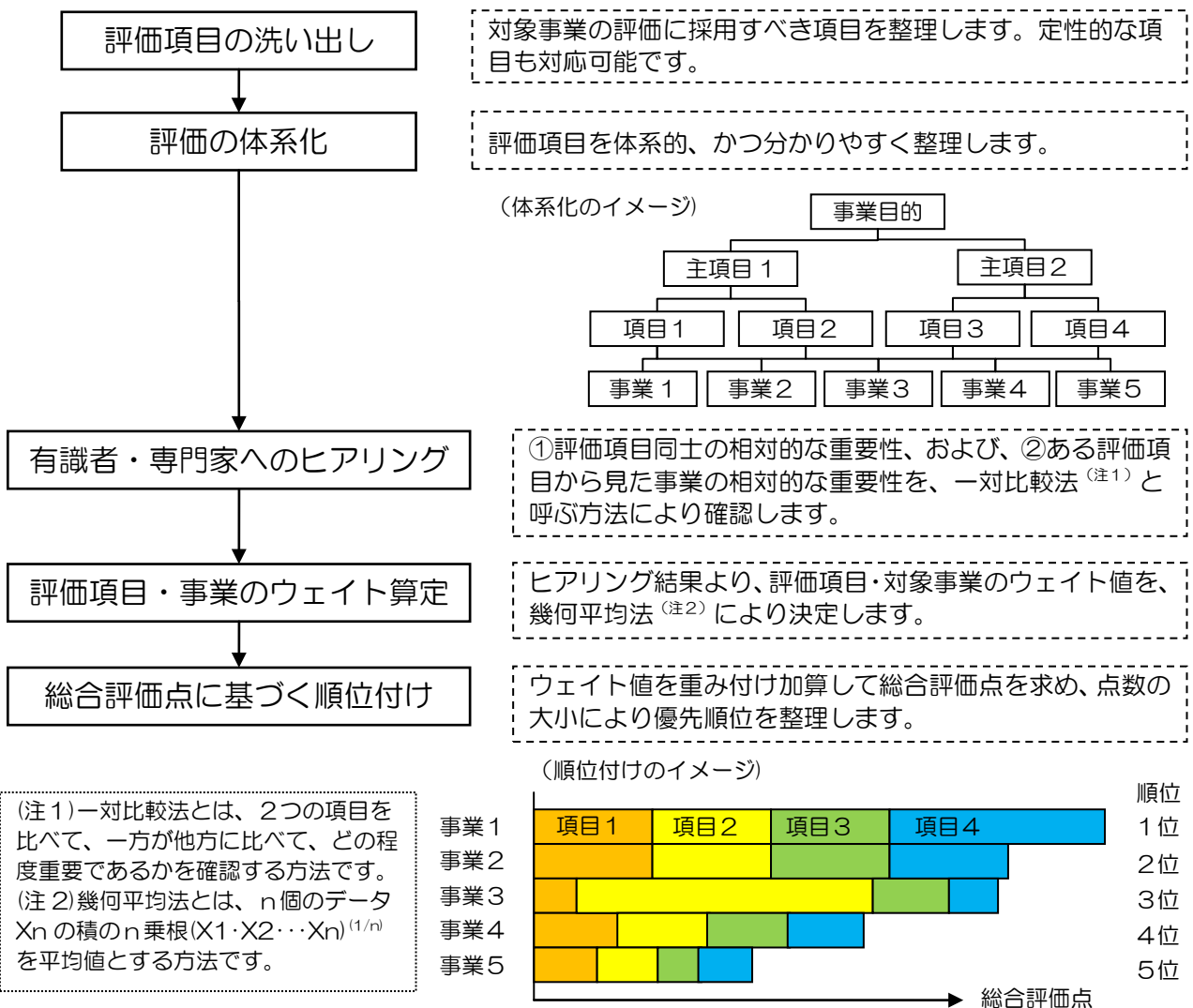
客観性が高い、事業の優先順位付け手法

概要

- 高度成長期に集中的に整備された社会資本の老朽化が進み、計画的な改築・更新が必要です。
- 厳しい財政状況の中で、効果が高い事業を選別して、優先順位を明確にする必要があります。
- 市民の理解を得るためには、客観性が高い手続きを採用することが有用です。
- 推奨する手法には、次のものがあります。
 - 定量化が難しい便益の項目を、有識者・専門家の判断で定量化します ⇒ 階層分析法(AHP)
 - 定量的であるが金銭化が難しいデータを評価項目として扱います ⇒ 包絡分析法(DEA)

階層分析法 (Analytic Hierarchy Process : AHP)

- 評価点の内訳から、事業の評価理由（優先順位を高くした要因）を確認することが容易です。



包絡分析法 (Data Envelopment Analysis : DEA)

- さまざまな評価項目を、事業の①アウトプット（事業効果）、②インプット（コスト）に区分して評価に取り込み、インプットあたりのアウトプットの大きさ（効率性）を分析します。
- 客観的な計算手法（線形計画法）により、評価点を算定します。重み付けのためのアンケート調査は不要です。

